

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】 こうのとり保育園

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

### 【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

#### コメント

園長から年度初めの事業計画で保育観を伝えたり、折に触れて投げかけや子どもへのかかわりを通して共有を図ったりしている。園全体で子どもの思いを尊重することを理想とした保育の実現を目指し、学びあいながら保育をしていこうとする向上心がある職員が多い。

### 【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

#### コメント

子どもの立場に立って環境づくりや流れる日課など具体的な手段を試行錯誤しながら、共有や学びあいをしている。子どもの気持ちを丁寧に理解しようと深め合いを重ね、一歩ずつ実現に向けて保育が変化の段階であることが様子より伺えた。

### 【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

#### コメント

保護者・来客者が目にする場所に個人情報がわかるものはない。職員間での会話からも知り得ることもなかった。

### 【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

#### コメント

苦情解決の制度について職員にも周知し対応している。苦情までいかない場合も、内容に応じて職員会等で職員へ発信している。

### 【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

#### コメント

状況・内容によって、会議で周知し、嘔吐処理や感染症対策の確認も必要に応じて確認をしている。ヒヤリハットの活用も高め、事故を防いでいく意識を高めていく方向である。

### 【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

#### コメント

状況・内容によって会議で周知している。

### 【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

#### コメント

職員の発見や気づきで、自分たちでできる部分は補修・修繕で改善している。築年数の経過で、買い替えや修繕も計画的進められている。

### 【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

清掃業務の職員がいて園内整備が行き届いている。園庭もきれいで破損玩具も見られなかった。園庭の人工芝で子どもが伸び伸びと遊べており、視覚的にも明るくいい雰囲気だった。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

限られた面積の中で環境家具配置を工夫し、活動に合わせたコーナーが作られている保育室もあった。遊びの様子や動線を考え模索しているという担任からの説明もあり、子どもに合わせての改善意識がある。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗

り越え、集団生活を豊かにする

#### 5歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

#### コメント

乳児：0歳児クラスでは大人の動きや言葉、声の大きさにも配慮されていて、子どもを尊重した空間の中で安心して過ごせていると感じた。1，2歳児は、遊びや食事など個々のペースを大切に見守り、自分で試みるのにゆったりとした人数・時間でのかわりを工夫していた。

幼児：限られた保育室の中で環境を工夫し、職員もそれぞれ、子どもに合わせて主体的に見守りやかかわり・援助をしていた。ホールを活用することで遊びのコーナー化やランチルームなどクラスの垣根を越えて見渡せ、職員が介入するばかりでなく、子ども自身で興味関心の広がりや見通しを持って過ごせる育ちのにもつながると感じた。一方、食事では待たせてしまう状況が生まれやすいので、引き続き現状把握と見直しをしていく必要もあるだが、職員がすべて考え決めるのではなく、子どもと考えあうことで、子どもが主体で生活を作っていける経験にもつながると感じた。

#### 【全体を通して】

#### コメント

職員のスキル差はあるが、互いに学びあい支えあうために、職員発信の座談会を行うなど、職員主体の風土作りも進みつつあることはとてもいいと感じた。子どもの思いを尊重する保育の実現に向かって今後の成長も期待できる。

評価日 2024年 1月 23日

評価者 園名 聖隷こども園こうのとり東

役職 聖隷こども園こうのとり東園長

氏名 大塚麻紀子